

平成25年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）					整理番号	5	-	3	-	1	
事務事業名	側溝清掃事業					担当課係	環境衛生センター				
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり				記入担当者					
	中項目	③生活環境への阻害要因の減少				内線等					
	小項目	2. 豊かな自然を保護し共生するまちづくり				E-mail					
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）					事業区分	経常事業				
事業予算費目	款	4	衛生費		項	1	保健衛生費				
	目	4	塵芥処理費		事業	1	側溝清掃事業				
開始年度			年度	根拠法令・要綱等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律					

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市の管理する道路側溝や排水路の清掃
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 市道の側溝に溜まった汚泥・土砂を除去して、生活排水や雨水の流れを良くして悪臭や害虫の発生を防ぐ。生活環境の保全と公衆衛生の向上を目的としている。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 市民の方から要望のあった側溝や排水路の清掃を実施し、汚泥等は最終処分場において埋立処分している。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 住民の生活環境の保全と公衆衛生の向上をめざしている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果	
	単位		H24	H25	H26	H27	将来目標 （年度：平成）		
汚泥等埋立量	汚泥量は、清掃実施箇所の状態によって左右されるため、目標値にはならない。		側溝を清掃したときに発生し埋立処分した量						
	目標		130	150					
	実績		131	161					
	達成度		100.0%	100.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H24	H25	H26	H27	指標の説明
	汚泥等最終処分埋立量	ト	計画		130	150			バキューム車で搬入した量
			実績		131	161			
	週あたりの作業日数	日	計画						毎週水曜日に実施
			実績		1	1			
			計画						
		実績							
		計画							
		実績							

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績） （単位：円）

		24年度決算	25年度決算	26年度決算	25年度予算	
全体コスト （円）	A 直接事業費	2,187,358	2,409,816	0	6,559,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
	B	2,187,358	2,409,816			
	人件費 ①×②	職員平均人件費①	6,199,803	6,129,047		
		従事した割合②/人	0.36	0.36		
A + B		4,419,287	4,616,273	0		
単位コスト	活動指標の説明	事業費/処分量	事業費/処分量	備考		
	活動指標 1 単位当たりコスト	34円/kg	29円/kg	平成24年4月1日現在 人口40,876人		
	市民一人あたりのコスト	108	113	平成25年4月1日現在 人口40,733人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 他市の道路側溝については、道路の付帯物で、もっぱら道路管理者が行うものであり、他都市においては、環境部局では側溝清掃を実施していない。本市においては、限られた人数で作業していることもあり、都市整備課の管理部門との統合や民間委託する事を検討していく必要がある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 生活環境の保全や公衆衛生の向上に寄与しており今後も事業を継続してほしい。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	しゅんせつ土砂等を取り除き、水はけを良くし、側溝機能を改善するための事業であるが、下水道等生活排水対策の遅れから、市街地を中心に生活排水路としても使用されている。長年の排水から病害虫や悪臭を放つ汚泥等によって、清掃要望のある側溝は増えつつあり、その必要性は高いと思われる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	管理責任に基づいて、管理者である市が行うことは当然であると思われる。しかしながら、市が管理していない水路等の付近住民からも当該水路の清掃の要望も増えてきており、そうした水路については、水路管理者に清掃を依頼するも、清掃が進んでいない実態がある。今後は、そうした箇所の業務の実施も検討する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	現状の作業人員は、廃棄物の収集運搬業務を主として、その収集運搬のない日を側溝業務(週一回)にあてているため、依頼を受けてから実施完了までに相当の日数がかかる状況になっている。業務全般の見直しや職員数の業況を見ながら、実施効率の改善を検討していきたいと考えている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	雨水及び生活排水のために、側溝水路の機能保全是必要である。また、近年の大雨により排水や、その後の病害虫の発生を考えると、適宜業務を実施することで、災害時の被害の抑制にも繋がるものと考えられる。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	清掃業務実施後は、一定の水路機能は回復しており、成果は上がっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	側溝清掃事業については、26年度から道路管理主管課である、都市整備課に移管。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	50 ~ 59 点	評価点 72	側溝清掃については、現状では民間委託することで、市が一定の責任を持って行う事業であると考えられ現状のまま継続すると判定しました。
		4 見直しの上縮小する	40 ~ 49 点		
		5 終期設定し終了	30 ~ 39 点		
		6 休 止	20 ~ 29 点		
		7 廃 止	19 点 以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

側溝清掃作業を民間委託する事により、作業日数の改善等、効率化を行う。

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
3		3 改善・効率化し継続	当該事業の市民ニーズは年々大きくなっていると考えられる。今後は、道路管理者としての行政と利用者としての市民が役割分担して行う必要があり、生活に根ざした清掃可能な範囲は市民が自ら行い、市民が清掃できない溝蓋の架かった範囲は行政で行う必要がある。
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	